

科目名	看護総合実習 Practice of Comprehensive Nursing		担当教員 (研究室番号)	看護系教員 (専任)	教員への連絡方法 (メールアドレス)							
履修年次	4年次 前期	科目 区分	総合科目		選択 区分	必修	単位数 (時間)	3(90)	授業 形態	実習	科目等 履修生	否
											オープンクラス	否
科目 目的	既習の看護知識、理論、技術を統合して活用しうる総合的能力を養い、自らの看護観や看護技術を創意し発展させて看護実践能力を高める。											
ディプロマ・ ホルダー (DP)	主要なDP	G 看護学に対する研究的視点を持ち、主体的に学ぶ姿勢を有している。(関心・意欲)										
	関連する DP	D 様々な職種との連携において、看護専門職としての役割を理解し、多職種による協働活動に参加できる。(技能・表現) F 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。(思考・判断)										
到達 目標	領域やフィールドを選択し主体的に取り組む。下記のような目標の達成を目指す。 1. 対象の健康問題から生じる保健・医療・福祉の問題を総合的に捉え、状況や様子を分析して、高度な医療的ケア、退院後や地域での生活を考慮した質の高い看護を提供できる。 2. これまでの実習経験を基に看護技術を創意工夫して適切な技術を適用できる。 3. 対象の保健・医療・福祉の問題の捉え方、対応の方法及び具体的な対応(実践過程)について、適切な方法で記録できる。 4. 対象の保健・医療・福祉の問題に対する実践過程を系統立てて評価することができる。 5. 対象と関わる保健・医療・福祉・看護チーム、家族や地域で暮らす人々と建設的な関係を築き連携することができる。 6. 看護者としての責任と倫理をわかまえ、自律して行動できる。 7. 看護実践において常に看護観を探究し自らの考えを追究する。											
成績評価方法 (基準)	実習内容、レポート、自己評価等を総合的に評価する。(但し、具体的には、該当分野・領域の担当教員より説明がある)											
再試験の有無と 基準等												
教科書	特に指定はしない。但し、各自必要なものを準備する。											
参考書等	特に指定はしない。但し、各自必要なものを準備する。											
学生の主体性を伸ばす ための教育方法と 学生への期待	社会情勢の変化を理解し対応するために、これまでの看護学の学習と実習体験の全てを活かして独自に組み立てて取り組み、看護観や課題の探究、多職種との連携・協働、看護専門職者としての自律等を修得して看護実践の基本的な能力と資質を養い、生涯学習への展望を見出していきましょう。											
備考												

学 習 内 容

基本的な実習内容と実習方法について

<実習方法>

事前準備) 実習目的を明確にして課題を設定し、実習を自ら設計する。実習分野・領域を選択し、自己課題達成に向けて実習計画を立案する。

臨地実習) 実習計画に基づいて課題に沿った看護実践を展開する。看護実践を記録して看護過程を評価する。

<実習内容>

・これまでの経験をより発展させるような実習内容

・新たな知見や考え方を広げていくような実習内容

・地域で暮らす人々の生活の質を高めていけるような実習内容

・併せて、領域実習で十分にできなかったことや残された課題を達成する。

* 具体的な実習内容、実習方法と展開、記録方式等について学生自身が考え、担当教員及び臨地指導者と調整する。

* 詳細は、全実習概要の該当分野・領域を参照のこと。

学 習 課 題

実務経験を活かした教育の取組

・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。

・行政機関や学校等において保健師や養護教諭として実務に携わった教員が指導する。また、実習施設では実務指導者から指導を受ける。